

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和6年度事業報告書

1.定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)芸術文化振興事業

①市民文化事業への支援事業						
1	文化芸術を地域に生かす創造支援事業	通年	—	26,371	26,371	市補助金 26,371
「仙台市文化芸術推進基本計画」に基づく取組みとして、観光、まちづくり、福祉、教育等他分野との連携により社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動や、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する事業に対して助成した。 実施にあたっては、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から広く公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、採択事業を決定した。また、採択者を対象としたキックオフミーティングや、社会連携事業については、事業の成果を振り返る活動報告会を実施し、仙台で活動する文化芸術関係者の交流・情報交換の機会を提供した。また、外部専門家等による視察およびヒアリングをおこしたレビュー記事作成などの伴走支援を行った。						
2	支援・助成・協力事業	通年	—	17,819	17,819	市補助金 17,819
市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行った。 ① 支援事業 :ウェブサイトに市民企画事業の告知を掲載し、広報支援を行った。 ② 助成事業 :仙台市の文化芸術の振興と普及啓発及び郷土の歴史継承を推進するため、市民自らが行う公演・展示・上映等の経費の一部を助成した(「公演・展示活動助成事業」)。年2回公募。 ③ 協力事業 :特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力等を行った。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋等の協力を行った。						
3	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。						138件

②公演事業

4	泉文化創造センターリニューアル記念事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	3,055	300	協賛金 300
泉文化創造センターのリニューアルオープンを市民に広く知らせ、再び施設に足を運んでいただくことを目的とした事業として「泉文化創造センターリニューアル記念事業」を実施した。 ① イズミティ21まつり (5/26 仙台銀行ホール イズミティ21全館): 大ホールでは吹奏楽団コンサート、小ホールでは地元演奏家によるミニリサイタルを開催したほか、展示室、諸室では地元子育て支援団体の協力を得てミニコンサートや主に子どもたちを対象としたワークショップを開催した。(大ホール出演:陸上自衛隊東北方面音楽隊、泉シンフォニックウインドオーケストラ、小ホール出演:タタル・ヘンリ、木下順子、宮地夏美、八巻梓、蔡翰平、佐々木真央、協力:NPO法人エムケイベース) ② 彩の国シェイクスピア・シリーズ2nd Vol.1「ハムレット」 (6/1,2 大ホール): 故蜷川幸雄演出による前シリーズを引きついで、吉田鋼太郎演出で新たに始まったシリーズ。第1回目は四大悲劇の中でも最高傑作とうたわれるハムレットを上演した。(仙台放送と共に)(出演:柿澤勇人、北香那、吉田鋼太郎他) ③ 仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会エンターテインメント定期 (5/4, 8/10, 3/20 大ホール): 仙台フィルハーモニー管弦楽団が新たに開始したアニメーションなどの音楽に特化したシリーズ企画。第1回「コードギアス 反逆のルルーシュ」、第2回「機動戦士Ζガンダム」「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」、第3回「アイカツ! シリーズ」。						
5	宝塚歌劇月組全国ツアー 仙台公演	9/6~8	仙台銀行ホール イズミティ21	37,936	57,792	入場料等 57,047 広告料 350 その他 395
東北の中核都市圏としてニーズの高い宝塚歌劇の公演を仙台銀行ホール イズミティ21の大規模改修後のリニューアル記念事業の一環として実施した。						入場者:6,982人

6	仙台クラシックフェスティバル2024	10/4~10/6	日立システムズホール 仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、太白区文化センター 他	87,355	83,249	市負担金 23,000 入場料 51,775 協賛金他 8,474
当財団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、クラシック音楽に親しみを持つてもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。18回目を開催した。当年度に再開館した仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台、太白区文化センターを会場に、3日間で79公演を実施したほか、プレ企画として、県民ロビースペシャルコンサート(8/7)にせんくらアーティストを派遣、また仙台市の文化施設3箇所を会場に、「街なかコンサート」(9/8,16,19)を開催し本体公演の盛り上げを図った。						
<ul style="list-style-type: none"> ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらった。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできる音楽祭とした。 ・仙台国際音楽コンクール入賞者と仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバーとのアンサンブル、仙台・宮城出身アーティストの公演等、当財団ならではの企画をより多く盛り込み、クラシック音楽で街の賑わいを創出する音楽祭とした。 ・音楽祭の運営にあたっては、多くの市民ボランティアとも連携を図った。 						入場者: のべ36,000人
7	もりのみやこのふれあいコンサート	12/4	仙台銀行ホール イズミティ21	3,616	3,616	市補助金 3,616
障害のある方とそのご家族・同行者の方等にオーケストラによるコンサートをお楽しみいただくことを目的に開催したコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えている。仙台市立中学校の特別支援学級の生徒も招待している。事前申込制・入場無料で、仙台市及び仙台フィルと共に開催。当年度は、リニューアルオープンした仙台銀行ホール イズミティ21での5年ぶりの開催となった。						入場者:834人
8	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,057	0	
放送局・文化芸術団体等が行う公益性の高い文化事業を共催し、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。当年度は、「第26回仙台青葉能」(河北新報社)、「人形浄瑠璃文楽」(東北放送)、「仙台オペラ協会第48回公演」(仙台オペラ協会)、「第61回宮城県芸術祭」(公益社団法人宮城県芸術協会)、「第8回仙台短編文学賞」(仙台短編文学賞実行委員会)のほか、「NTTデータ東北ウインターコンサート2024 木嶋真優&酒井茜デュオ・リサイタル」(河北新報社)、「YAMATO String Quartetコンサート」(ジェイ・ツー)等を共催した。						32件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に發揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

9	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	55,002	56,808	市負担金 48,719 入場料等 1,597 助成金 6,492
仙台市の文化芸術振興の中核施設として、日立システムズホール仙台の機能強化推進事業を、国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共に開催で実施した。						
<普及啓発事業>						
<p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(小学生7/9~12、11/7、中学生11/6,8 コンサートホール):新型コロナウイルスの影響で、4年にわたり学校訪問型で行ってきたが、当年度は、5年ぶりに小・中学生をコンサートホールに招き、フルオーケストラによる演奏会を実施した。(指揮:鈴木織衛、高関健 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団)</p> <p>②日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(3/8 全館):4回目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成した。各部屋の利用促進を図るため、普段施設を利用しない層に足を運んでもらえるような企画を用意した。公募ステージを継続させ、仙台を拠点に活動するアーティスト等による公演企画も実施した。(有料公演出演者:六華亭遊花、西本幸弘ほか)</p> <p>③ダンスのいりぐちプログラム ((1)6/8~7/7 全5回、(2)10/19,20 (3)3/1,2 練習室4、和室ほか):幅広い年齢の市民が豊かで柔軟な発想や感性を育み、一緒に考える力を育てるコミュニティダンスのワークショップを対象別プログラムで実施した。</p> <p>(1)「50歳からのんだんだダンサーズ」 佐藤有華(ダンサー)による、50歳以上を対象としたコミュニティダンスワークショップ。最終目には成果発表会を行った。</p> <p>(2)「いる、いる？ いる！ 今日のわたし。」白神ももこ(振付家・演出家・ダンサー)によるダンスワークショップ。「親子編」と「6歳以上誰でも編」を開催した。</p> <p>(3)「Hello! オドルわたし」渋谷裕子(ダンサー・振付家)による、0歳～小学生の保護者を対象としたダンスワークショップ。</p> <p>④仙台おどりラボ(2/2,16 交流ホール):参加者同士の対話を促しながら、身体表現についての講義を織り交ぜたワークショップを実施した。「からだとメディア研究室」との共催。</p> <p>⑤リラックス・パフォーマンス(8/25 交流ホール):発達障害や身体的な特性等により、静かに鑑賞することが難しい人でも安心してクラシック音楽を楽しめるコンサートを開催した。</p>						
						入場者、受講者数: 普及啓発事業 ①鑑賞者:10,482人 (全14回、121校) ② 来場者:3,207人 (ホール公演985人、 公募ステージ1,285 人、ワークショップ 167人、その他770 人) 公募ステージ出演: 30団体 ③受講者: (1)70人

<p>＜公演事業＞</p> <p>⑥仙台フィルと愉しむ「オーケストラ・ザンマイ！」Vol.1～ドイツ浪漫の深き味わい～(7/15 コンサートホール)：「オーケストラ・スタンダード」シリーズの後継企画として新たにスタートさせたシリーズ。第1回は指揮者に熊倉優を、ソリストには14歳ながらも国内で複数のコンクールで優勝を重ねる注目のトランペット奏者 児玉隼人を迎え、ドイツ作曲家のオーケストラ作品を演奏した。</p> <p>⑦仙台フィルと茂木大輔が贈る名曲をとことん「味わいつくす」シリーズ～第2回「英雄」(エロイカ)の巻～(12/7 コンサートホール)：茂木大輔によるわかりやすい解説で、一つのテーマを味わいつくす演奏会シリーズ。今回は「英雄」をテーマに、ベートーヴェンが交響曲「英雄」を書き上げた時代の背景を紐解く解説を交えつつ、「英雄」交響曲全曲を演奏した。</p> <p>⑧仙台フィルと愉しむ「オーケストラ・ザンマイ！」Vol.2～オーケストラinシネマ～(1/19 コンサートホール)：シリーズ第2回は、映画音楽でも取り上げられたオーケストラ作品や、バーンスタイン、J.ウイリアムズなどクラシックと映画双方のジャンルで活躍した作曲家による作品を演奏した。</p> <p>⑨日立システムズホール仙台 クリスマスコンサート 音楽と朗読でおくる「くるみ割り人形」(12/22 シアターホール)：仙台で活動する弦楽四重奏団Fontanaカルテットの演奏とフリーアナウンサーの深井ゆきえの朗読で親子で楽しめる公演を開催した。</p> <p>⑩ライブ文学館vol.21 井上ひさし「組曲虐殺」(12/15 シアターホール)：仙台文学館開館25周年を記念し、初代館長・井上ひさしの遺作「組曲虐殺」を、仙台を代表する俳優・渡部ギュウによる演出と、若手俳優のキャスティング、在仙の音楽家・榎原光裕の音楽で上演した。井上戯曲に造詣の深い朝日新聞記者の山口宏子のアフタートークも開催した。</p> <p>＜その他＞</p> <p>⑪青年文化センター事業評価(通年)：青年文化センターの活性化に資する事業の評価を行い、事業運営を改善していくためのシステムを整えるため、外部モニターによる事業評価を行った。</p>					
					(2)99人 (3)22人 ④受講者:43人 ⑤来場者:318人
10	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	902	119
					公演事業 来場者: ⑥708人 ⑦516人 ⑧738人 ⑨501人 ⑩411人
<p>中期経営計画をふまえ、地域資源等を活用しながら文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。実施にあたっては他課と連携し、安定的・効率的な運営に努めた。</p> <p>①日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(3/8 全館)：4回目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成した。各部屋の利用促進を図るため、普段施設を利用しない層に足を運んでもらえるような企画を用意した。公募ステージを継続させ、仙台を拠点に活動するアーティスト等による公演企画も実施した。(有料公演出演者:六華亭遊花、西本幸弘ほか)(再掲)</p> <p>②青年文化センター施設機能強化事業群</p> <p>(1)地域連携事業(通年)</p> <p>旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森²(もりもり)がっこ」や小学校等の近隣施設と協働して事業を行った。</p> <p>ア)フラワーハウス作戦(5/18、9/21)：旭丘小学校の児童とその保護者、施設職員と一緒に花の寄せ植えを行い、ホール玄関や外周の美化を行った。</p> <p>イ)七夕飾り展示(8/7～30)：旭丘小学校土曜開放図書室や地域の折り紙クラブの協力を得て吹き流し等の七夕飾りを制作し、フリースペース活用事業で展示了。</p> <p>これらのほか、わんぱく森²がっこ「食育講座」や旭丘小学校「まち探検」などの実施に協力した。</p> <p>(2)フリースペース活用事業(通年)</p> <p>エントランスホール等のフリースペースを活用して彩りある景観と賑わいを創出し、施設の魅力向上に努めた。</p> <p>ア)展示事業:エントランスホール共有スペースにおいて、地域の子どもたちが制作した七夕飾りや冬のイルミネーション等の季節に応じた展示の他、事業団事業の写真パネル展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七夕飾り展示(8/7～30) ・冬のイルミネーション展示(12/7～2/2) ・事業団事業の写真パネル展示「踊らないダンスワークショップvol.3写真展」「せんぐら2023写真展」「仙台国際音楽コンクール歴代入賞者写真展」等 イ)知の場所づくり(サラダ文庫):事業団関係の書籍、雑誌等の文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらった。令和元年度から継続実施。 <p>(3)諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(通年)</p> <p>諸室活用のPRと利用促進のため、地域連携事業やフリースペース活用事業とリンクしたワークショップ等を諸室で実施した。</p> <p>ア)ランタン作りワークショップ(7/24)：旭丘小学校の児童を対象に実施し、「七夕飾り展示」で飾り付けるランタンを制作した。</p> <p>イ)オーナメント作りワークショップ(12/7)：旭丘小学校の児童とその保護者を主な対象に実施し、「冬のイルミネーション展示」で飾り付けるオーナメントやランタンを制作した。</p> <p>(4)ホール活用事業</p> <p>ア)「第8回日立システムズホール仙台にございん！伊達武将隊とめぐる舞台裏(バックステージ)ツアー」(8/21 シアターホール)：小学3～6年生とその保護者及び中学生を対象に、伊達武将隊による演武を取り入れたホール見学会を実施した。機材・舞台装置等の解説やバックステージの見学、照明・音響操作体験などを通じて、ホールへの関心と知識を深めてもらった。</p> <p>イ)新規事業に向けた視察・調査:次年度の新規事業実施に向けて視察・調査を行った。</p> <p>③コピーサービス事業(通年)</p> <p>施設利用者向けのサービスを継続して実施した。</p>					

11	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	5,868	3,140	入場料 2,220 協賛金 900 手数料収入 20
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 ①小ホール企画 イズミノオト: 仙台市泉区出身の吉岡知広(仙台フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者)による音楽監修で、作曲家をテーマとしたプログラム構成で、国内外で活躍する演奏家を招聘し、質の高い演奏会を実施した。 (1)第9回「シャーマン 詩人ノ恋」(7/7) (2)第10回「百花繚乱ノ巴里」(11/17) (3)第11回「シャーベルト 白鳥ノ歌」(3/2) ②市民協働によるロビーイベント: ホールの保守点検日を利用し、公演では使用しない大ホールホワイエを活用してイベントを行った。地元の音楽演奏家等に依頼して広く市民に公開するとともに、様々な芸術ジャンルのプログラムを提供することで幅広い来場者を獲得し会館全体の活性化を図った。 (1)第1回「テューバとピアノで奏でる色彩豊かな響き」(1/21) (2)第2回「街の詩(うた)をつづけてあの時を想う」(3/11) ③避難訓練コンサート (10/7休館日 小ホール):より安心安全な施設管理のため、防災訓練の内容を充実させることを目指して行った。実際に聴衆が客席にいる状況で、本番中にコンサートを中止するレベルの大震が起きたという想定で、来場者の避難誘導も含めて避難訓練を行った。職員にとっても、多くの来場者の避難誘導を体験することで通常の防災訓練では体験できない経験の機会となった。(出演:仙台市消防音楽隊・仙台市防災減災アドバイザー 早坂政人) ④ピアノ弾き込みボランティア運営 (2/16~27):大・小ホールに配備されているグランドピアノを常に良好な状態に保つため、定期的に一定の演奏技術を持つ市民ボランティアに依頼して弾き込みを行った。 ⑤プレイガイド事業 (通年):財団主催・共催事業のチケット販売を窓口で行った。また、大・小ホールを利用して実施される催事のチケットについて、依頼があれば預りチケットとして販売した。当館で実施される事業であれば、協議のうえ、無料の入場整理券等の取扱い協力も行った。	入場者等: ①(1)357人 ②(2)220人 ③(3)280人 ④(2)280人 ⑤(2)170人 ⑥(3)258人 ⑦(4)参加ピアニスト8人 ⑧(5)は収益事業				

④ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。

12	猿舞座のさるまわし	6/2	榴岡公園 歴史民俗資料館	0	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演を4年ぶりに実施することを模索したが、環境が整わず中止した。					
13	れきみん秋祭り2024	10/26、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	3,346	1,002	助成金 1,000 その他 2
	東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術といった「無形」の民俗文化、芸術文化を榴岡公園と歴史民俗資料館の館内を会場として紹介する事業を開催し、例年同様に数多くの来場者があり好評を得た。					来場者:3,331人
14	地域交流促進事業	12月・1月	富沢遺跡保存館	108	0	
	施設の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、地域に根差したイベントを行った。これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用等、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する事業。当年度は、「ながまち学びネット」と共催して地域住民の交流の場となるイベント(①11/23「森の響き たき火と狩人編」と、「仙台三桜高校音楽部」のコンサート(②2/1「森の響き コンサート編」)を実施した。地域の方々が参加しやすく、かつ地域の人材と組織を生かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与することを意識した。					参加者: ①23人 ②57人
15	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場 !! ”」	通年	富沢遺跡保存館他	1,849	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団MICHInoX (旧称:劇団短距離男道ミサイル)」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベント(7月~2月)を行った。ミュージアム・シアターの手法を導入し、考古学の知識や知的興奮に加え、施設の非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。その一環として、自主事業「森の響き」や指定管理事業「特別企画展」とも連携し活動の場を広げた。狩人の演じ方や衣装に関しては、実験考古学的な手法も用い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究も行った。					実施回数:20回 参加者:735人
16	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	118	0	
	映像ならではの手法を用いて、野外展示「氷河期の森」等の展示や各種事業の記録・発信を行った。また過年度の制作動画の視聴体験イベントを1回行い、本事業の周知を図った。市民協働による映像アーカイブスの蓄積・公開を続け、当館が目指す地域に根差したミュージアムとしての機能・役割を強化するため、新たな動画(360度・VR動画<石器編>)1本も作成し公開し、視聴体験会を開催した。(12/14)					参加者:15人

17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	115	0	
	近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根差した施設になることを目的とした事業である。平成28年度から継続。当年度は土器片そっくりのクッキーづくりや土器型チョコレートづくり等、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを地域の施設や学校と連携して行った。(2/8,15, 3/8)		参加者: 親子19組41人			
18	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	578	0	
	新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。3次元計測では、当年度も引き続き3次元モデルのデータの蓄積を行い、公開を始めた。また、その活用方法を開発、実践した。リビングヒストリーでは、実践例の視察を行った。当年度は、海外の博物館の事例を知ることを目的として、JICA海外協力隊としてペルーの博物館で活動した山田めぐみを迎えて、職員・ボランティア向けの研修を実施した。(3/27)		参加者:29人			
19	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	471	0	
	市民による草の根的なアーカイブ活動「コミュニティ・アーカイブ」の理念・実践の普及啓発に取り組んだ。 ①能登半島地震・豪雨災害で記録活動をする個人・団体との意見交換(協力:東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京) ②アーカイブ資料活用のための試作品開発(玩具[立版古])					
20	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	299	0	
	施設活用の新たな手法とツールの開発、実践に取り組んだ。 ①「七夕ひろば」の実施 ②定禅寺通にぎわいづくり(協力:定禅寺通エリアマネジメント) ③「メディアテークdeちびパーク」の実施(共催:西公園プレーパークの会、のびすく仙台)		参加者: ①2,093人 ③288人			
21	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	468	836	刊行物販売 836
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 ①歴史民俗資料館グッズ:延宝9～天和元年(1681～1683)の仙台城下絵図のほか明治13、17年、大正14、15年、昭和3、4、8、16、22、27年の仙台市を描いた地図、昭和3年の仙台市内を描いた鳥観図、昭和26年に英語表記された仙台市の地図、計13種類を継続販売した。また、令和6年度は建物築150年を迎えたことから、かつての建物内部の構造を示した旧歩兵第4連隊兵舎のペーパークラフトを制作し販売した。(支出177千円、収入297千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:来館の思い出となるグッズとして、ボランティア会が制作した編布シリーズや松ぼっくりのリースの販売を継続した。あわせて新たなグッズ開発にも取り組んだ。(支出63千円、収入58千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担った。(支出31千円、収入45千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに製作し来館の記念等として人気の高いしおり・クリアファイル等を継続販売し、常設展で紹介している文学者イラストを用いたグッズを制作し来館者のニーズに応えた。(支出159千円、収入245千円) ⑤メディアテークグッズ:来館の記念や施設ブランド向上と、収入確保をねらい、ミュージアムショップ等と共に施設の特性や資源を生かして開発したオリジナルグッズを継続販売した。(支出38千円、収入191千円)		収益事業			

⑤劇都仙台2024事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共に各種振興事業を以下に基づき実施した。「良質な公演の機会の拡大」、「表現者の発掘・育成」、「活動を始める市民への窓口やネットワークの支援」、「教育や福祉等、他ジャンルとの連携」、「情報交流や協働」。

22	仙臺能	11/23	日立システムズホール仙台	4,195	4,195	市負担金 2,146 入場料 2,049
	「市民能楽講座」から名称変更しての2回目。能と狂言を気軽に鑑賞できる本格的なホール公演として、広く市民に能楽の魅力を伝えるため、金春流による能と、大蔵流による狂言の公演を、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施した。		入場者:526人			
23	舞台スタッフ・ラボ	通年	演劇工房10-BOX他	1,065	992	市補助金 259 受講料 83 助成金他 650
	舞台監督・音響・照明の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コース等を基本に、外部の組織・団体と連携し、総合的な舞台スタッフの育成事業を実施した。 ①基礎コース(2/1～2/7):舞台監督、照明、音響の基礎を学ぶ講座を実施した。 ②発展コース(2/8～15):演劇公演で実際にスタッフワークを体験する講座を実施した。 ③舞台スタッフ・ラボ×みやぶん演劇学校合同公演(発展コース本番・模擬公演)(2/16):宮城野区文化センターとの共催により「Tale Soup～お話のいっぱい詰まったスープを召し上がり～」(演出:芦口十三)を実施した。		参加者: ①受講者 14人 ②受講者 10人 ③受講者 10人 出演者 7人 来場者 120人			

24	10-BOX鑑賞プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	400	400	市補助金 400
<p>①仙台・劇のまちトライアルシアター:10-BOX運営費不足分(舞台管理委託費)に流用したため、事業を取止めた。</p> <p>②共催公演:良質な演劇鑑賞の機会を提供、観客層の拡大につなげ、交流の場を創出した。 「どうほく学生演劇祭」(9/7~9/8)、「ひのき舞台」(11/16~11/17)</p> <p>③10-BOX広報事業:10-BOXを拠点として、仙台圏の演劇情報を集めインターネットや紙媒体等により広く市民に発信するほか、10-BOXのYouTubeチャンネルを通して、演劇や施設の魅力を市民に発信し活動の推進に努めた。</p>						入場者: ②326人
25	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	2,875	2,875	市補助金 2,875
平成24年度から実施している「短編戯曲」を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行によって若手作家の作品上演の機会を増やすことを目指した。平成30年度から作品上演と作品募集をそれぞれ隔年での実施とし、当年度は第9回の大賞作品選考を行い、最終候補作品11作品を掲載した冊子を作成した。						
26	能-BOX事業	通年	能-BOX	498	498	市補助金 445 受講料 53
<p>能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化への親しみと理解を深めるため、以下の事業を実施した。</p> <p>①こどものための能講座(8/4~8/11):講師 觀世流能楽師:山中迅晶</p> <p>②能のおけいこ体験講座(上期4/13~9/14、下期10/3~3/20):仙台市能楽振興協会との共催</p> <p>③外国人のための能講座(1/26、2/1):講師 御供真人</p>						受講者: ①15人 ②58人 ③11人
27	地域連携による演劇振興事業	通年	演劇工房10-BOX他	500	0	
<p>①仙台市高等学校演劇祭:教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会との共催で実施した。</p> <p>②舞台芸術活動サポート:卸商センター、市民センター等の地域の文化活動に対して運営アドバイス等の支援を行った。</p> <p>③協力・協働事業:IMS磯貝メソッド仙台塾の音声学ワークショップ「声とことばを学ぶ」や、インディペンデントシアターによる「最強の一人芝居フェス INDEPENDENT」仙台公演等への事業協力を行った。</p>						参加者: ①のべ:600人
28	共通事務	通年	演劇工房10-BOX他	631	233	市補助金 121 刊行物販売 112
ホームページの更新や発送、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売、次年度の事業に向けた視察や調査研究等、事業間連携活動に必要な業務を行った。						
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。						
29	地下鉄駅コンサート	9/28.29、 10/5,6	地下鉄駅構内	1,013	1,013	市負担金 1,013
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催した。						来場者:4,845人 参加者:30組134人
⑦土井晩翠顕彰事業						
30	土井晩翠顕彰事業	通年	-	897	897	市負担金 842 刊行物販売 55
平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに『荒城の月』を歌い継ぐ(10/14)、SPレコードで聴く「宮沢賢治と音楽」~刊行100年『春と修羅』~かげとひかりのひとくさりづつ~(10/19)を実施した。また晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努めた。						
⑧育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図った。						
31	芸術家派遣事業	9月~2月	各学校・地域	0	0	
'仙台市文化芸術による子供の育成総合事業実行委員会'が文化庁から業務受託し、小学校・中学校・高校(特別支援学校含む)で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する事業。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行った。文化庁からの受託額は7,000千円。						実施校:38校 鑑賞者:3,840人
32	子どもの創造性を育むアウトリーチ事業	9月~2月	市内幼稚園、保育園等	5,382	5,382	市負担金 5,382
幼稚園児、保育園児を対象に、文化芸術に触れ創造性を育むことを目的としたアウトリーチ事業を、市内幼稚園、保育園等を訪問して実施した。						実施施設:41施設 鑑賞者:3,377人

33	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/1,14,15	日立システムズホール仙台	674	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共催により、平成27年より継続開催している。 当年度は①金管楽器部門(12/1)、②ピアノ部門(12/14)、③ヴァイオリン部門(12/15)の計3部門を実施した。 日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。						受講者: ①応募23人、受講22人 ②応募9人、受講5人 ③応募8人、受講5人 聴講者: ①115人 ②110人 ③82人

⑨出版事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

34	出版物の販売継続事業	通年	—	0	65	刊行物販売 65
①仙台文学館刊行物販売事業: 『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』等、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続販売した。(支出0、収入46) ②『文化芸術の社会再生力』販売事業: 事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売した。(支出0、収入1) ③『RE:プロジェクト記録集』販売事業: 平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』『5年目のRE:プロジェクト通信』)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売した。(支出0、収入18)						

⑩広報事業等

35	広報事業	通年	—	4,441	4,441	市補助金 4,441
仙台における文化芸術領域の動向や、地域で活動する人々を広く市民に広報・紹介するウェブメディア「まちりょく」を運営した。併せて、市民文化事業団ウェブサイトをはじめ、X(旧Twitter)等のSNSも利活用しながら、当財団の主催事業や活動、運営施設の情報等の発信を行った。						
36	市民文化事業団友の会運営	通年	—	1,512	1,759	友の会会費 1,759
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織を継続運営した。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当財団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等。当年度よりレター会員(年会費1,800円)・ネット会員(年会費800円)の2区分からなる新制度を開始し、会員の利便性向上を図った。						会員:約1,000人
37	事業団事業全体にかかる共通事務等	通年	—	5,754	324	手数料収入 324
①共通事務: 事業全体の調整、新事業の調査・企画、チケット販売業務等を行った。 ②人材育成事業: 財団職員全体の資質向上を目的とした各種研修を実施したほか、個々の職員や施設の専門性に応じた技術・能力や意欲向上を目的とした研修・勉強会等の実施支援を行った。						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

令和7年に開催する第9回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。

38	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	11,300	11,300	市負担金 11,300
コンクール事務局の運営を行った。						
39	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	1,333	1,333	市負担金 1,333
組織委員会(3/26)、運営委員会(5/22、7/9、12/16、1/22)、企画推進委員会(11/18、3/6)を開催した。						
40	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	11,698	11,698	市負担金 2,554 その他収入 9,144
動画データ等による予備審査を行い、第9回コンクール出場者を決定し、2/12に発表した。						
41	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	15,414	15,414	市負担金 15,414
公式ホームページやSNS、ニュースレター、プレスリリース等により、第9回コンクール出場者募集広報を展開するとともに、開催告知広報として音楽雑誌への広告掲出、ポスター掲出、パンフレット配布等、市民の認知度を高め、鑑賞者の拡大に努めた。						

42	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	1,793	1,793	市負担金 1,793
第9回コンクール期間中の活動に向けた準備や研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行った。						
① ボランティア新規募集及び活動説明会 ② 会場運営サポート :コンクール関連事業等の会場運営、研修会 ③ 広報宣伝サポート :ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「MAP for SIMC Contestants」(仙台のガイドブックWEB版)作成、ボランティアブログ運営等 ④ 出場者サポート :コンクール期間中活動の企画、勉強会等 ⑤ ホームステイ受入れ :受入れ勉強会、意見交換会等 ⑥ ボランティア・プロジェクトチーム :第8回コンクール入賞者によるイベント「ボランティアプロジェクトVol.29今をきらめく一等星～ルウォ・ジャシン デニス・ガサノフを迎えて」の企画運営(6/14)						ボランティア登録: 240人 ⑥入場者:279人
43	第8回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	日立システムズホール 仙台、国内各地	8,877	7,177	市負担金 3,422 入場料等 3,755
第8回コンクール優勝者の副賞として、仙台フィルハーモニー管弦楽団との「第9回仙台国際音楽コンクール開催記念コンサート」や国内オーケストラとの共演の機会を提供した。また、令和7年度に実施する副賞の準備を行った。						開催記念コンサート 入場者:736人
44	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	仙台市内各所	5,928	5,928	市負担金 5,928
①仙台の音楽文化振興を目的に、第8回コンクール入賞者と仙台市内の市民オーケストラが共演する機会を設けた。 ・デニス・ガサノフ(ヴァイオリン部門第2位)出演／仙台市民交響楽団定期演奏会(6/16) ②第8回コンクール入賞者による小・中学校訪問ミニ・コンサートを実施した。 ・デニス・ガサノフ(6/11～6/12) ・ヨナス・アウミラー(ピアノ部門第2位:7/2～7/3) ③第9回コンクールのPRを目的としたコンサートを実施した。 ・堀米ゆず子ヴァイオリン部門審査委員長出演「堀米ゆず子 イザイ&J.S.バッハと語るヴァイオリンの神髄」(11/2) ④仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、オーディションで選ばれたヴァイオリンとピアノの若いソリスト13名と仙台フィルメンバーによる弦楽五重奏が共演するコンサート『街かどコンサート「はばたけコンチェルト」』を開催した。(Vol.1 1/26、Vol.2 2/23、Vol.3 3/16) ⑤第9回コンクール期間に開催する「審査委員によるマスタークラス」の受講生選考会を行った。(ヴァイオリン部門3/10、ピアノ部門3/11)						入場者: ①720人 ②1,190人(4校) ③405人 ④ 1/26 301人 2/23 331人 3/16 275人 ⑤ 応募者: ヴァイオリン11人 ピアノ37人 合格者: ヴァイオリン6人 ピアノ6人

(3) ジュニアオーケストラ運営事業

45	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台	23,918	23,918	市負担金 13,955 受講料等 9,963
・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。 ①8/6～8/8に宮城県蔵王町で夏期合宿を実施した。 ②10/27に「第32回定期演奏会」を開催した。 ③3/23に「2025スプリングコンサート」を開催した。						団員:113人 (3/31時点・在団生96人、卒団生13人、サポート団員4人) 演奏会入場者: ②644人 ③653人

(4) 演劇系練習施設運営事業

46	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	33,251	33,114	市補助金 27,581 使用料等 5,533
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、仙台における演劇及びその周辺の表現活動の支援をした。加えて「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。令和6年度より休館日を設定した運用を開始した。また、仙台市に寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。						収益事業を含む

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

47	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	56,532	56,532	市受託料 56,443 受講料 89
仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(来館者の対応、事業の実施等)を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能をもち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努めた。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施した。						年間入館者: 46,426人
【企画展(関連企画のツアーやワークショップ等含む)】						企画展来場者: ①10,690人(4/1~) ②5,237人 ③8,681人 ④3,330人(~3/31)
①ふらり海手バスさんぽ～市バスでおでかけ6ルート(3/26～7/31) ②能登応援企画 のとのこと～能登の夏、キリコ祭り(8/6～9/29) ③ザンザコザン 荒浜磯獅子踊～100年の空白と10の謎(10/19～2/16) ④3.11現場の事実×心の真実 生活の、あとと、先 ～「ごみ」と災害(3/1～7/31)						
【その他事業】						協力事業:65件 仙台市立小学校見学:26校
・沿岸部の風土・文化体験事業:(「夏色ドロップス～あそんで味わう、せんだいの海辺」、「まめげつつあん」、「海辺のふるさとツアーバスで巡る閑上・貞山堀の歴史」、「クロマツの“やまと”で松っぱさい」、「輪通しづくり」等) ・表現・物語で語り継ぐ事業:(「海辺のメモリアル帖」の発行vol.21～vol.24、おらほのアルバムプロジェクト出張イベント) ・市民・団体・組織との協力・連携事業 ・アーカイブ・情報発信事業:(震災前の沿岸部の写真収集、webサイト・Facebookの更新、YouTube等)						

(6) 藝術文化受託事業

48	市制施行135周年記念コンサート	7/1	仙台銀行ホール イズミティ21	4,395	4,395	市受託料 4,395
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第2位のヨナス・アウミラーを迎えて開催した。					入場者:1,365人

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容				入場者数等見込・備考 (単位:千円)	

(1)仙台文学館普及啓発事業

（イ）展示企画展・講習会・研究会					
年次	事業名	開催時期	開催場所	回数	補助金額
49	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	116	116 市補助金 113 その他 3
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝え た。 ①特別展「詩人・石川善助をたずねて」関連：朗読と音楽の調べ、連続講座などを開催した。 ②「夏休みこども文学館 えほんのひろば 長野ヒデ子」関連：トークイベントやワークショップ等を開催し た。 ③特別展「文豪、仙台ニ立チ寄る。」関連：講演会を開催した。 ④企画展「大沼英樹写真展」関連：ギャラリートーク等を開催した。				参加者： ①223人 ②180人 ③145人 ④290人
50	ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い	6/22	仙台文学館	412	412 市補助金 412
	短歌、俳句、川柳の合同吟行会。当日発表される題を元に参加者が投句し、各部門で、「ことばの祭典 賞」、「選者特選」などを選び表彰した。				参加者：160人
51	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	1,832	1,832 市補助金 138 受講料 1,694
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を 開講した。 ①佐伯一麦エッセイ講座：館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7 回開催した。 ②佐伯一麦と読むキャサリンマンスフィールド「園遊会」：佐伯一麦と一緒に文学作品を味わう読書会を開 催した。 ③仙台文学館ゼミナール：近代文学を読み解くコース、現代文学を探求するコース、日本の古典に親しむ コース、表現をみがくコースで、各講座それぞれ3～5回連続で開催した。 ④仙台朗読祭：一般参加者による朗読発表会。ゲストに詩人の和合亮一、フリーアナウンサーの渡辺祥子 を迎えて開催した。				参加者： ①144人 ②46人 ③1,966人 ④80人

52	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行った。			対応数:7件		
53	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センター等に学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。			講座数:8件		
54	情報誌の発行	通年	—	974	974	市補助金 974
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌「仙台文学館ニュース」を発行した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
55	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちが、保護者とともに読書を楽しめるように、約2,500冊の絵本や児童書を配架している部屋。季節や行事ごとに絵本の入れ替え等を行い活性化を図った。					
56	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業やイベントの開催、会報の発行等を実施した。					
57	出版物等の販売	通年	—	325	325	市補助金 146 刊行物販売 179
	佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』のほか、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事 業 名	期 日	会 場	支 出	収 入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

(1)せんだいメディアーク 展覧会等総合事業

58	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアーク	19,836	19,836	市補助金 19,836
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。「川俣正/仙台インプログレス」等の事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行った。 ①川俣正/仙台インプログレス: 仙台市若林区の井土地区に作品『井土浜テラス』『井土の井戸』を制作した。宮城野区新浜地区との交流を促進したほか、映像や模型等の報告展を行った。(3/1~5/23) ②笹原晃平/社会実践ポストポン: 夏休みにあわせて、メディアーク周辺学区の小中学生を対象に「お金」や「交換すること」をテーマとしたアートプロジェクトを実施した。 ③ワケあり雑がみ部: 「雑がみ」をテーマとした自由な造形活動を行った。キンコーズ青葉通一番町店での実施など外部での展開を拡大した。 ④PARKING A30/大縁会: 仙台フォーラス駐車場を会場に、仙台・東北で制作活動に取り組む若いアーティストやクリエイターが交流できる機会を創出した。 ⑤コミュニケーション: 公開ミーティング(8月)、TALK(8月、12月)の実施、ジャーナルの発行(3月)を行った。					参加者:151,936人
59	展覧会事業	通年	メディアーク	16,076	16,076	市補助金 7,351 入場料 725 助成金 8,000
	仙台にゆかりの美術作家、椎名勇仁(しいなたけひと)の活動を紹介する「椎名勇仁 可塑圈:ねん土的思考」展を実施した。1990年代末から制作を始め、粘土の可塑的な性質に注目し塑造を中心とした多様な表現活動を仙台を拠点としながら続けてきた氏の代表的な作品シリーズ「火山焼」の展示など最初期の作品から各地でのプロジェクト、会期中の会場で行う現在進行形の制作までを余すところなく紹介したほか、ゲストを招いてのトークやギャラリーツアーを行った。					入場者:5,326人 関連企画参加者:122人

60	メディアスタディーズ	通年	メディアーク	2,936	2,936	市補助金 1,436 助成金 1,500
市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディア環境の提供・協働をした。 ＜スタジオ情報発信＞ 市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働し、「てつがくカフェ」「結婚の定義」などを実施した。						
＜地域文化アーカイブ＞ 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す事業を実施した。成果物は、メディアークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信等により、広く市民に活用される財産とした。また、それらをもとにした展示「どここれ？—おしえてください昭和のセンダイー」「地域とアヴァンギャルド—戦後前衛芸術の聖地／仙台市太白区太子堂」を行った。						参加者:70,595人
61	発信・施設活用推進	通年	メディアーク	4,557	4,557	市補助金 3,994 入場料 477 刊行物等販売 86
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力ある施設としての取組を展開した。 ①バリアフリー・デザイン事業: 目や耳の不自由な方の情報アクセスを促進するため、各種事業での手話通訳・要約筆記や音声解説付き上映、手話による読み聞かせボランティアの養成と「手ではなすおはなしの会」(共催:仙台市民図書館)を実施した。 ②館長発信事業: 発信力のある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアーク全体の新しい姿を示した。併せて、館長の動向を伝える情報発信等も行い、より広い理解へと努めた。 ③地域文化連携・施設活用推進: 定禪寺通を中心とする『青葉まつり』『とっておきの音楽祭』『定禪寺ストリートジャズフェスティバル』など地域の祭や、『ショートピース！仙台短篇映画祭』『せんだいデザインリーグ2025卒業設計日本一決定戦』など各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、館内の諸機能を活かしたイベントや展示、上映会等多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。						
62	アーティストリサーチ	通年	メディアーク	660	660	市補助金 660
令和7年度の展覧会へ向けて、アーティストを招聘、有識者、市民とともに、調査を行った。						
63	こどもわかものプロジェクト	通年	メディアーク	1,054	1,054	市補助金 1,054
メディアークを拠点に、子どもの健やかな育ちと子育てを地域社会全体で支える機運の醸成に向けた事業及び調査を行った。親子でつなぐカフェの実践、「遊びのまち」の調査のほか、メディアークに来館する小中学生のために、「建物」「メディア」「デザイン」「バリアフリー」「東日本大震災」のひみつを学ぶことができるリーフレット『smtデザインのひみつ』を制作した。						
64	コミュニティ・アーカイブの仙台モデル事業	通年	メディアーク	710	710	市補助金 710
地域の風景や文化等を記録した写真・映像等のメディア資料の整理・活用や現在進行形の記録行為を市民自らの参画により進める「コミュニティ・アーカイブ」の活性化・課題解決をねらいとして、地域資料の利活用に関する法務課題の検証や、能登半島大地震・豪雨災害後の記録活動に関するトーク(「わすれん！」的記録活動ミーティングー能登から／能登へー)を「星空と路」会期中に実施した。						参加者:35人
65	資源循環の杜へ せんだいリポート2024	通年	メディアーク	2,400	2,400	市負担金 2,400
仙台市環境局と実施している、市民・企業・行政の連携により培ってきた資源循環の取り組みを発展的に継承するシリーズ「せんだいリポート」の2年目。資源循環に意欲的に取り組む実践者が定期的にワークショップ等を行う機会を設定、活動の顕在化・交流を図った。12月には、「せんだいリポートデイ」と題し、資源循環にまつわるさまざまな活動を広く紹介した。						参加者:1,416人

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考
						(単位:千円)

(1)歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
66	歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,498	62,498	市指定管理料 62,498
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、宮城県指定有形文化財である本館建物の維持管理を行った。						

②展示事業

67	歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	135	135	市指定管理料 135
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、3月には震災関連展示を行った。						年間入館者: 24,381人
68	企画展「戦争と庶民のくらし」	4/27~7/7	歴史民俗資料館	295	295	市指定管理料 295
仙台地方を中心に近代の戦争と庶民のかかわりについて考えられる展示構成とし、具体的には「軍都仙台」の成立、仙台と西南戦争、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満洲事変、日中戦争、第2次世界大戦、戦時下の暮らし、米軍占領下等に関する実物資料を展示紹介した。明治時代以降から昭和期にかけての戦争に関連する様々な資料を展示した。						入館者: 5,887人
69	企画展「通信の変化と市民のくらし」	7/20~11/10	歴史民俗資料館	716	716	市指定管理料 716
明治時代から始まった郵便制度や新聞、絵はがき、電信、電話に関連する資料や大正時代末から昭和時代に普及したラジオやテレビなどの資料から通信網の発達に伴い、人々のつながり方や暮らしがどのように変化したか展示紹介した。						入館者: 8,750人
70	特別展「仙台駄菓子と石橋屋」	11/23~4/13	歴史民俗資料館	1,174	1,174	市指定管理料 1,174
「仙台駄菓子」という言葉は戦前から各地の駄菓子を調査し続けた「石橋屋」を営む石橋幸作の研究成果によって生み出されたもので、令和5年に閉店した「石橋屋」から寄贈された資料を基に石橋幸作の駄菓子研究の一端と「仙台駄菓子」という言葉が広まった過程を紹介した。						入館者: 6,294人 (~3/31)

③普及啓発事業

71	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	86	86	市指定管理料 86
①資料館サポーター養成講座 (7月～3月): 「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者の様々な活動につながっていくことを目指して活動した。 ②子ども講座 (4月、7月、11月、1月、3月): 主に小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。 ③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」 (4/27~29、5/3~5/5の6日間): なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」、こまわし、フラフープ、ホッピング等の遊びや生活用具「石臼ひき」を体験するイベントを実施した。 ④夏のクイズラリー・冬のクイズラリー: 学校等の長期休暇に行うクイズやパズル形式での自主見学学習。 ⑤たんけん資料館「れきみんパックヤード・ツアーア」 (8月、10月、2月): 展示室、収蔵庫や資料整理室等普段見ることができない資料館のパックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 ⑥ホームムービーの日 (10/19): 家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り、地域の貴重な映像を発掘し、公開する事業。令和6年度は昭和50年代の仙台市内中学校の修学旅行や体育大会の映像を上映した。						
参加者等: ①登録者24人 ②313人 ③3,291人 ④夏147人 冬118人 ⑤76人 ⑥38人						
72	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	0	0	
1年間の資料館での事業やイベント等についてまとめた「資料館だより」をウェブサイトで公開し、資料館の講座や体験学習等について近隣の学校や関連施設に周知した。						
73	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習及び総合的な学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼ひき等の体験を行った。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受け入れ、11月～12月には、市内中学校から職場体験の生徒を受け入れた。						学校見学: 103校(うち市内小64校) 4,851人 博物館実習: 4大学8名 職場体験: 3校9名

④資料の収集・保管及び調査研究事業

74	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,090	1,090	市指定管理料 1,090
常設展示や企画展示に関連した、仙台地方の歴史と庶民の暮らしの様子を示す資料を収集し、迅速に適切な整理を行い、館内及び館外の収蔵庫に保管した。また、台帳のデジタル化等を進め、より容易な検索を可能にする作業を継続した。						新規収蔵登録資料: 1,162点
75	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,113	1,113	市指定管理料 1,113
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、第43集を刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集し第23冊(下駄資料)を刊行した。						

(2)富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

76	富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	95,092	95,092	市指定管理料 95,092
旧石器時代に関する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館の維持管理を行った。						

②展示事業

77	富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	12,097	12,097	市指定管理料 12,097
地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行つた。						年間入館者: 41,908人
78	第106回企画展「仙台の文化財めぐり 畫屋下セコイヤ類化石林」うもれぎ、多様性。」	4/26~7/21	富沢遺跡保存館	147	147	市指定管理料 147
発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。仙台市指定天然記念物「畵屋下セコイヤ類化石林」と珪化木や、仙台の工芸品である埋もれ木細工、富沢遺跡をはじめとする埋没林出土遺跡等を紹介した。						入館者:10,610人
79	第107回企画展「土のなかのメッセージ」	9/6~11/17	富沢遺跡保存館	340	340	市指定管理料 340
人の暮した跡、自然現象の跡、動植物の生息した跡など、たくさんの情報がつまっている土の中を、宮城県内の遺跡を発掘調査した際に見つかった地層剥ぎ取り資料を通して紹介した。						入館者:8,928人
80	特別企画展(第108回)「氷河期の景色あと」	1/10~3/2	富沢遺跡保存館	1,768	1,768	市指定管理料 1,768
2万年前の植生を具体的に物語る富沢遺跡の調査成果とともに、同時期の日本列島に生息していた動物たちを紹介し、現代と大きく異なる環境が広がっていた氷期の環境を示した。						入館者:6,040人
81	第109回企画展(令和7年度)ポスター・チラシの印刷	通年	富沢遺跡保存館	94	94	市指定管理料 94
令和7年度開催の第109回企画展のポスター・チラシを作成した。						

③普及啓発事業

82	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,107	1,107	市指定管理料 1,107
<p>①地底の森フェスタ2024(10/13):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。当館ボランティア会とともに企画し、「石器を作る」「石器を使う」「編布の試着」「槍投げ」「石蒸し料理の試食」の体験コーナーを設けた。</p> <p>②考古学講座(10/26、3/8):当館常設展示内容の理解を深めるために、「春日社古墳出土革盾」「遺跡の年代測定」の2つテーマを設定し、一般市民を対象とした講座を行つた。</p> <p>③たのしい地底の森教室(5月、9月、10月、11月):石に絵を描く旧石器時代体験、野外展示観察、企画展に関する内容等、施設の魅力を多様な観点から紹介する体験型事業として実施した。</p> <p>④利用学習事業(6月～10月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として施設を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器使用等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開した。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行つた。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による2名を対象に1年間にわたり隔週1回学芸員が支援する活動日を設けた。各人の活動成果をまとめ、館内や当館ホームページにて公開した。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に、展示解説や行事の際の業務補助等を行うボランティア育成を目的として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行つた。</p> <p>⑦地域や大学との連携:近隣市民センターの事業に参加したり、事前に登録した大学生有志に当館活動をサポートしてもらう学生サポーター事業を行う等、地域や大学との連携強化を図つた。</p> <p>⑧富沢ゼミ(7/6、9/29):富沢遺跡周辺の遺跡や文化財を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や博物館等を紹介する講座を行つた。</p>						参加者: ①269人 ② 第1回45人 第2回88人 (うちオンライン61人) ③全6回、のべ379人 ④13校760人 ⑤2人修了 ⑥69人登録 (うち新規7人) ⑦学生サポーター3人登録 ⑧ 第1回59人 第2回40人
83	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に生かすことを目的に意見やニーズの聴取を行つたりするための場。当年度は地蔵田町内会会長へ聞き取り調査(3/23)を行い、地域との連携事業を進めていくきっかけとした。						

④資料の収集・保管及び調査研究事業

84	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
85	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	224	224	市指定管理料 224
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。保存処理検討会は委員の都合により、個別に聞き取り・相談する形で2回(7月、1~2月)実施した。					
86	野外展示の維持管理と関連調査	通年	富沢遺跡保存館	680	680	市指定管理料 680
	野外展示「氷河期の森」を適切に維持管理するための調査等を行い、併せて植生検討会(11/19、2/28)を開催した。					
87	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	132	132	市指定管理料 132
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティア等による調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の施設運営に役立てた。					
88	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	170	170	市指定管理料 170
	令和8年度の企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。また施設長寿命化改修工事及び常設展示リニューアルに向けて、遺跡研究及び展示法に関する研究会を開催するほか、展示内容や手法を検討するための調査等も行った。					

(3)縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

89	縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	50,487	50,487	市指定管理料 50,487
	縄文時代に関する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。					

②展示事業

90	縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,365	16,365	市指定管理料 16,365
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					
91	コーナー展示	通年	縄文の森広場	71	71	市指定管理料 71

宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。
 ①「東北の縄文遺跡-仙台市太白区上野遺跡-」(4/1~6/11)
 ②「東北の縄文遺跡-宮城県女川町・内山遺跡-」(8/1~10/20)
 ③「東北の縄文遺跡-仙台市泉区・高柳遺跡-」(12/1~2/11)
 ④「東北の縄文遺跡-福島県本宮市・高木遺跡-」(3/19~3/31)

見学者:
 ①2,815人
 ②3,928人
 ③1,332人
 ④469人

③普及啓発事業

92	縄文まつり	5/12、10/20	縄文の森広場	480	480	市指定管理料 480
	季節ごとに開催する自由参加イベント。春と秋の計2回開催し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏等を実施した。					
93	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	885	885	市指定管理料 885
	①団体予約: 子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を行った。 ②随時体験: 来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 ③体験講座: (1)「週末体験講座」(4/27、5/19、6/30、9/8、11/10、1/19、3/2) (2)「夏休み子ども考古学教室」(7/27、8/17) (3)「発掘資料整理調査体験教室」(11/30) ④特別イベント: 夏(8/11)・秋(10/12)・冬(12/25)・春(3/29)の学校の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。					

参加者:
 ③
 (1)122人
 (2)26人
 (3)5人
 ④260人

94	縄文の森講座	12月～2月	縄文の森広場	45	45	市指定管理料 45
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募会場50名・オンライン80名を対象とした。 ①「縄文最新研究 最前線_1 東北地方の土偶を知る」(12/8) ②「縄文最新研究 最前線_2 バラエティー豊かな出土品-福島県川俣町・前田遺跡の魅力を知る-」(1/26) ③「縄文最新研究 最前線_3 仙台発掘最前線!!2024」(2/23)			参加者: ①55人 ②46人 ③56人		
95	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	166	166	市指定管理料 166
	各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明等のための研修事業を、当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行った。			登録者:47人		
96	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するための施設利用研修を実施した。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施した。10月～12月には、近隣中学校から職場体験の生徒を受け入れた。			博物館実務実習: 3人(2大学) 職場体験: 22人(5校)		
97	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,161	2,161	市指定管理料 2,161
	小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。			利用者: 945人(16校)		
98	運営懇談会	通年	縄文の森広場	0	0	
	近隣の小学校を訪問し、校長と対談形式で行った。当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てること、今後の事業を模索することを目的に意見交換を行った。			訪問校:3校		
99	野外展示「縄文の森」の多目的活用 「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	10	10	市指定管理料 10
	野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、近隣住民・小学校・地域の団体等と連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリ等を採取し育てる事業を行ってきた。当年度も、縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行った。(①10/23、②11/26)			参加者: ①52人 ②50人		

④資料の収集・保管及び調査研究事業

100	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	45	45	市指定管理料 45
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニュー やイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
101	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査等を行った。					
102	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	10	10	市指定管理料 10
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
103	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	55	55	市指定管理料 55
	令和7年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。					
104	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

105	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	188,395	188,395	市指定管理料 188,395
						文学に関する展示等を実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。 収益事業を含む

②展示事業

106	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
						明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。
107	仙台文学館開館25周年記念特別展「詩人・石川善助をたずねて～北方への道のり」	4/27～6/30	仙台文学館	3,076	3,076	市指定管理料 3,076
						開館25周年記念の特別展は、仙台の詩人・石川善助を取り上げた。明治40年に仙台の国分町に生まれた善助は、仙台商業学校在学中から詩作に目覚め、友人と詩誌を刊行、『日本詩人』をはじめとする中央の詩誌に作品を発表していたが、不慮の事故により32歳で亡くなった。宮城出身の詩人として、尾形亀之助と並び称されてきた善助だが、生前に一冊の詩集を出すことも叶わず、これまでその創作活動の全容はあまり知られてこなかった。本展では、当館が収蔵した石川善助関係の資料の全貌を紹介するとともに、日本近代詩史における善助の位置づけを明らかにし、その詩の魅力を伝えた。また、草野心平や宮沢賢治、仙台のスズキヘキや天江富弥等をはじめとする様々な人々との交友も紹介した。 観覧者:1,233人
108	夏休みこども文学館えほんのひろば「せとうちたいこさんにあいたーい！ 長野ヒデ子 絵本と紙芝居」	7/20～9/8	仙台文学館	3,341	3,341	市指定管理料 3,341
						夏休み恒例企画のこども文学館えほんのひろば。当年度は、絵本・紙芝居作家の長野ヒデ子の原画展を開催した。『おかあさんがおかあさんになった日』『せとうちたいこさん』シリーズ、『まんまん ぱつ』『おせんべやけた！』『おつきさまひとつづつ』等、代表作の原画を中心に作品の数々を紹介した。会期中には、読み聞かせ・影絵等の「お話会」を開催し、絵本や児童書が自由に読める「絵本の部屋」を開設。子どもたちがことばや文学に触れる場を提供した。 観覧者:5,526人
109	特別展「文豪、仙台ニ立チ寄ル」	10/5～12/15	仙台文学館	3,830	3,830	市指定管理料 3,830
						近代以前から多くの人が行き交う場所だった仙台には、後に文壇で活躍した文学者たちが学業や仕事などで訪れていた。本展では、島崎藤村、岩野泡鳴、正岡子規、高浜虚子、河東碧梧桐、宮沢賢治、太宰治を取り上げ、彼らと仙台とのかかわりや、交流のあった宮城の文学者を紹介した。今回はこれまで文学館に訪れたことのない若い世代に興味をもってもらえるよう、文学を題材にした人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とコラボレーションし、キャラクターパネルの設置、コラボグッズの販売等を行った。 観覧者:2,280人
110	「大沼英樹写真展」	1/25～3/23	仙台文学館	1,891	1,891	市指定管理料 1,891
						仙台市在住の写真家・大沼英樹は、全国の桜、そこに生活する人々の姿を14年間撮り続けている。東日本大震災では、被害に遭い傷つきながらも懸命に咲く桜を記録した『それでも咲いていた千年桜』を出版し、大きな反響を呼んだ。本展では、それらの写真を紹介するとともに、そこに息づく人々の暮らしの様子や思いを綴ったことばと一緒に紹介した。 観覧者:2,234人
111	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/12～2/11	仙台文学館	198	198	市指定管理料 198
						文学館あての年賀状を広く一般から募集し、ゆかりの文学者から寄せられた年賀状等と併せて展示した。 観覧者:2,026人
112	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	582	582	市指定管理料 582
						令和7年春の特別展の準備を進めた。

③資料の収集・保管及び調査研究事業

113	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,308	2,308	市指定管理料 2,308
						宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、必要に応じて資料の修復を行った。 新規収集:1334点

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)青年文化センター管理運営事業

114	青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	354,363	354,363	市指定管理料 354,363
令和4年度から5年間の指定管理を受け、その3年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。 (1)事故、火災、地震等の緊急事態に備えた体制整備と訓練等により、実践的に対処できるよう日ごろから取り組んだ。 (2)利用者の快適な施設利用のため、目配り、気配り、懇切丁寧な対応を心がけ、要望や意見に対する対応と取り組みを継続的に行なった。 (3)障害のある方や外国人への「合理的配慮」の取り組みを行い、安心して利用できる施設運営に努めた。 (4)長年の施設管理運営の経験を活かしながら、設備の保安維持のための日常的な管理・点検を行った。また、施設、設備の老朽化に備えた予防措置やニーズに合った設備の整備、仙台市の太陽光発電設備導入への協力等、環境に配慮しながら安全かつ快適、清潔な施設の維持管理を行なった。 (5)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として財団自主事業や仙台市事業の運営サポート、施設の特長を活かした大規模自主事業における連携等、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨をふまえた施設運営を行なった。 (6)ホームページやSNS等を活用し、求められる施設情報をより正確にわかりやすく伝えるとともに、施設の個性や特色を生かした事業の実施等により、利用者拡大やサービス向上に努めた。 (7)公の施設の適正な管理運営に不可欠な個人情報の保護、機密の保持及び法令遵守、救命救急講習等の各種研修を実施するとともに、財団全体で実施の研修、外部研修等へ積極的に参加し、管理運営業務や仙台市の文化芸術事業に関わるために必要な資質の向上に努めた。						

(2)泉文化創造センター管理運営事業

115	泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	123,894	130,659	市指定管理料 130,659
「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その最終年度となる当年度は次のとおりの業務を行なった。 (1)大規模改修工事にともなう2年間の休館があけ、利用を再開したことから、施設貸出業務をスムーズに行なうよう努めた。 (2)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営に取り組んだ。 (3)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (4)適切で丁寧な接客業務を行うとともに、施設貸出しに際しては、アンケートや「お客様の声」等を参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。 (5)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。 (6)施設を活性化させる事業として、クラシックコンサートシリーズ「イズミノオト」、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、避難訓練コンサート及びボランティアによるピアノ弾き込み事業を行なった。						

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

116	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	631,598	631,598	市指定管理料 631,598
5年間の指定管理3年目となる当年度は、次のとおり運営した。 ①今後の大規模改修とその後を見据え、計画的に保全を図った。 ②人々が様々なメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化等を中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、施設の利用者に対するきめ細かなアドバイス等を行い、市民が利用しやすい施設運営を行なった。 ③メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行なった。 ④美術・映像に関する情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行なった。 ⑤引き続き協働事業を発展させ、市民参加型事業を積極的に進めるとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。 ⑥博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担った。 ⑦東日本大震災の復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営し、3月には「星空と路」を開催した。(3/11~4/20)						

117	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,544	9,544	市指定管理料 9,544
映像音響ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業及び「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像等を含む様々な協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、「smtコレクション」として公開し、映像音響ライブラリーを通じて提供した。また、所蔵する地域映像を活用した上映会「映像の仙台史」を実施した。						配架数(新規購入): 600点(うち、AV566 点、BF34点) smtコレクション公開: 8点 上映会入場者:462 人

公益財団法人仙台市市民文化事業団

令和6(2024)年度事業報告の概要

[]内の単位：千円

1. 基本方針 1 資料の収集と活用

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、市民の主体的な学びの支援とまちの魅力向上に活かします。

[1] 資料の収集・保管及び調査研究

[2] 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

令和6(2024)年度 事業の概要

仙台の文化・歴史を形づくりの資料の収集・保管に努めるとともに、収蔵資料も積極的に活用しながら、施設ごとに特色ある展示事業を実施しました。また、関連イベントや講座等を通じて様々な方向から興味関心を持っていただけるよう、魅力ある事業づくりに努めました。

さらに、各施設における調査研究の成果を、ウェブサイトや動画等、多様なメディアを通じて積極的に発信しました。

[1] 資料の収集・保管及び調査研究

- ア 歴史民俗資料館[2, 203]（市指定管理料／No. 74-75）
- イ 富沢遺跡保存館[1, 206]（市指定管理料／No. 84-88）
- ウ 縄文の森広場[693]（市指定管理料・自主財源／No. 18, 100-104）
- エ 仙台文学館[2, 308]（市指定管理料／No. 113）
- オ せんだいメディアテーク[644, 549]（市指定管理料・市補助金・助成金・自主財源／No. 19, 60, 116-117）

[2] 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

- ア 歴史民俗資料館 常設・企画展等[3, 433]（市指定管理料／No. 67-70, 72, 75）
- イ 富沢遺跡保存館 常設・企画展等[14, 446]（市指定管理料／No. 77-81）
- ウ 縄文の森広場 常設・企画展等[16, 436]（市指定管理料／No. 90-91）
- エ 仙台文学館 常設・企画展等[13, 892]（市指定管理料・市補助金／No. 54, 106-112）
- オ せんだいメディアテーク 企画展等[17, 257]（市補助金・助成金・入場料・自主財源／No. 19, 59, 64）

主な展示事業

No. 70 歴史民俗資料館 特別展「仙台駄菓子と石橋屋」（11月23日～4月13日）

令和5年に閉店した「石橋屋」から寄贈された資料を基に石橋幸作の駄菓子研究の一端と「仙台駄菓子」という言葉が広まった過程を紹介した。（観覧者:6,294人）

No. 80 地底の森ミュージアム 特別企画展「氷河期の景色あと」（1月10日～3月2日）

2万年前の植生を具体的に物語る富沢遺跡の調査成果とともに、同時期の日本列島に生息していた動物たちを紹介し、現代と大きく異なる環境が広がっていた氷期の環境を示した。（観覧者:6,040人）

No.91 縄文の森広場 コーナー展示「東北の縄文遺跡」（通年）

宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。（観覧者:8,544人）

No. 107 仙台文学館開館25周年記念特別展「詩人・石川善助をたずねて～北方への道のり」（4月27日～6月30日）

仙台の国分町に生まれ32歳で亡くなった、仙台の詩人・石川善助を取り上げた。当館が収蔵した石川善助関係の資料の全貌を紹介するとともに、日本近代詩史における善助の位置づけを明らかにし、その詩の魅力を伝えた。（観覧者:1,233人）

No. 59 せんだいメディアテーク 展覧会事業「椎名勇仁 可塑圓：ねん土的思考」（通年）

粘土の可塑的な性質に注目し塑造を中心とした多様な表現活動を仙台を拠点としながら続けてきた椎名勇仁の代表的な作品シリーズ「火山焼」を展示し、初期の作品から会期中の会場で行う現在進行形の制作までを余すところなく紹介した。（観覧者:5,326人）

調査成果の情報発信

No. 64 せんだいメディアテーク「コミュニティ・アーカイブの仙台モデル事業」

「コミュニティ・アーカイブ」の活性化・課題解決をねらいとして、地域のアーカイブ資料の利活用に関する法務課題の検証を進めた。また、「星空と路」会期中には、能登半島大地震・豪雨災害後の記録活動に関するトークイベントを開催した。（参加者：35人）

2. 基本方針2 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びと安全で安心な活動の場を提供し、さまざまな文化活動の支援や情報発信に努めることで、多彩な学びの機会にあふれる環境やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

[1] 文化施設の管理運営・魅力向上

[2] 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力

[3] 鑑賞機会の提供

令和6(2024)年度 事業の概要

令和4年4月から2年間にわたる大規模改修工事を経て再開館した泉文化創造センターでは、安全・快適に施設を利用いただけるよう安定した施設運営に努めました。各施設においても、より多くのお客様にご利用いただけるよう、施設の魅力づくりに取り組みました。

また、助成事業や、施設の貸出等を通じて、文化芸術関係者や市民の多角的な文化活動への支援を行いました。

鑑賞事業では、泉文化創造センターリニューアル記念事業をはじめとする大規模公演を実施したほか、ミュージアム施設でも鑑賞機会を創出するための様々な事業を展開しました。

[1] 文化施設の管理運営・魅力向上

- ア 青年文化センター 管理運営・活性化事業[355, 265]（市指定管理料・自主財源・受講料等／No. 114, 10）
- イ 泉文化創造センター 管理運営・活性化事業[132, 817]（市指定管理料・自主財源・協賛金／No. 115, 4, 11）
- ウ 歴史民俗資料館 管理運営[62, 498]（市指定管理料／No. 66）
- エ 富沢遺跡保存館 管理運営[95, 092]（市指定管理料／No. 76）
- オ 縄文の森広場 管理運営[50, 487]（市指定管理料／No. 89）
- カ 仙台文学館 管理運営[188, 395]（市指定管理料／No. 55, 105）
- キ せんだい演劇工房10-BOX 運営[33, 251]（市補助金・使用料等／No. 46）＊方針4にも該当
- ク せんだいメディアテーク 管理運営・smtホスピタリティ向上事業[631, 897]（市指定管理料・自主財源／No. 116, 20）
- ケ せんだい3. 11メモリアル交流館 運営[56, 532]（市受託料・受講料等／No. 47）＊方針5にも該当

[2] 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力

- ア 青年文化センター 管理運営[354, 363]（市指定管理料／No. 114）
- イ 泉文化創造センター 管理運営[123, 894]（市指定管理料／No. 115）
- ウ せんだい演劇工房10-BOX 運営[33, 251]（市補助金・使用料等／No. 46）＊方針4にも該当
- エ せんだいメディアテーク 管理運営・ライプラリー運営・美術映像文化推進事業等[644, 738]（市指定管理料・市補助金・助成金／No. 116-117, 60, 62）
- オ 支援・助成・協力事業[44, 190]（市補助金・自主財源／No. 1-3）

[3] 鑑賞機会の提供

- ア 泉文化創造センターリニューアル記念事業[3, 055]（自主財源・協賛金／No. 4）
- イ 宝塚歌劇月組全国ツアーサンマリーン公演[37, 936]（自主財源・入場料・協賛金等／No. 5）
- ウ 共催事業＜文楽・青葉能等＞[1, 057]（自主財源／No. 8）＊方針4にも該当
- エ 劇場・音楽堂等機能強化推進事業＜公演事業＞[55, 002]（市負担金・助成金・入場料・自主財源／No. 9）＊方針4にも該当

- オ 泉文化創造センター 活性化事業<小ホール企画 イズミノオト等>[5,868]（自主財源・助成金・協賛金・入場料／No. 11）＊方針4にも該当
- カ せんだい演劇工房10-BOX 鑑賞プログラム[400]（市補助金／No. 24）
- キ 歴史民俗資料館 ミュージアム活性化事業<れきみん秋祭り>[3,346]（自主財源・助成金／No. 13）
- ク 富沢遺跡保存館 ミュージアム活性化事業<ミュージアム・シアター “狩人登場!!”>[1,849]（自主財源／No. 15）
- ケ 縄文の森広場 普及啓発事業<縄文まつり>[480]（市指定管理料／No. 92）
- コ 仙台文学館 普及啓発事業[528]（市補助金／No. 49-50）
- サ 広報事業[4,441]（市補助金／No. 35）
- シ 市民文化事業団友の会運営[1,512]（自主財源／No. 36）

泉文化創造センターリニューアル記念事業

泉文化創造センターのリニューアルオープンを市民に広く知らせ、再び施設に足を運んでいただくことを目的として実施した。

No. 4 イズミティ21まつり

大ホールでは吹奏楽団コンサート、小ホールでは地元演奏家によるミニリサイタルを開催したほか、展示室、諸室では地元子育て支援団体の協力を得てミニコンサートや主に子どもたちを対象としたワークショップを開催した。（入場者：4,127人）

主な鑑賞事業

No. 5 宝塚歌劇月組全国ツアー仙台公演

東北の中核都市圏としてニーズの高い宝塚歌劇の公演を仙台銀行ホール イズミティ21の大規模改修後のリニューアル記念事業の一環として実施した。（入場者：6,982人）

No. 9 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

・仙台フィルと愉しむ「オーケストラ・ザンマイ！」

「オーケストラ・スタンダード」シリーズの後継企画としてスタートしたシリーズ。

Vol. 1～ドイツ浪漫の深き味わい～

ソリストに国内数々のコンクールで優勝し注目を集めるトランペット奏者 児玉隼人を迎えて、ドイツ作曲家のオーケストラ作品を演奏した。（入場者：708人）

Vol. 2～オーケストラinシネマ～

映画音楽でも取り上げられたオーケストラ作品や、バーンスタイン、J. ウィリアムズなどクラシックと映画双方のジャンルで活躍した作曲家による作品を演奏した。（入場者：738人）

3. 基本方針3 さまざまな人材の育成

文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手を育てるとともに、地域の歴史や伝統、民俗芸能の継承を支援し、地域への誇りや愛着を深め、鑑賞者の育成にも務めるなど、文化に関わる市民力の向上をめざします。

[1] 講座・ワークショップの開催

[2] ボランティア、サポーターの活動機会の充実

令和6(2024)年度 事業の概要

舞台芸術・音楽分野の人材育成プログラムの実施により文化芸術に関わる人材のすそ野を広げるとともに、とりわけ子どもたちに鑑賞・体験の機会を積極的に提供し、文化芸術を通じた次代を担う人材の育成を図りました。

仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバル等の大規模な事業運営やミュージアム施設の運営にあたっては、ボランティアとの協働を積極的に行って、それぞれのライフステージに合わせ、市民が生き生きと活動できる場の創出に努めました。

[1] 講座・ワークショップの開催

- ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業<普及啓発事業>[55,002] (市負担金・助成金・受講料・自主財源等／No. 9) *方針4にも該当
- イ 舞台スタッフ・ラボ[1,065] (市補助金・助成金・受講料等／No. 23) *方針4にも該当
- ウ 能-BOX事業[498] (市補助金・受講料／No. 26) *方針4にも該当
- エ 芸術家派遣事業 (実行委員会参画／No. 31)
- オ 子どもの創造性を育むアウトリーチ事業[5,382] (市負担金／No. 32)
- カ 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト[674] (自主財源／No. 33) *方針4にも該当
- キ 仙台ジュニアオーケストラ運営[23,918] (市負担金・受講料等／No. 45) *方針4にも該当
- ク 歴史民俗資料館 講座・体験イベント等[86] (市指定管理料／No. 71, 73)
- ケ 富沢遺跡保存館 講座・体験イベント等[1,107] (市指定管理料／No. 82)
- コ 繩文の森広場 体験講座・特別イベント等[3,098] (市指定管理料／No. 93-94, 96, 97)
- サ 仙台文学館 文学講座・講演会・学芸員出前講座等[1,832] (市補助金・受講料等／No. 51-53)

[2] ボランティア、サポーターの活動機会の充実

- ア 仙台クラシックフェスティバル／仙台国際音楽コンクール ボランティア事業[1,793]
(市負担金等／No. 42) *方針4にも該当
- イ 歴史民俗資料館 サポーター養成講座[86] (市指定管理料／No. 71)
- ウ 富沢遺跡保存館 ボランティア育成[1,107] (市指定管理料／No. 82)
- エ 繩文の森広場 ボランティア育成事業・共同調査研究[176] (市指定管理料／No. 95, 102)
- オ 仙台文学館 友の会の支援 (No. 56)

主な人材育成事業

No. 23 舞台スタッフ・ラボ

舞台監督・音響・照明の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コース等、総合的な舞台スタッフの育成事業を実施した。

(受講者：34人、来場者：120人)

No. 32 子どもの創造性を育むアウトリーチ事業

幼稚園児、保育園児を対象に、文化芸術に触れ創造性を育むことを目的としたアウトリーチ事業を、市内幼稚園、保育園等を訪問して実施した。

(実施：41施設、鑑賞者：3,377人)

No. 51 仙台文学館ゼミナール

近代文学を読み解くコース、現代文学を探求するコース、日本の古典に親しむコース、表現をみがくコースで、各講座それぞれ3～5回連続で開催した。

(参加者：1,966人)

主なボランティア事業

No. 6 仙台クラシックフェスティバルボランティア事業

会場運営、カメラマン、アナウンス、会場花装飾等、多様な場面で市民がボランティアとして活躍する機会を提供した。(活動実績：147人)

No. 71 歴史民俗資料館サポーター養成講座

資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者の様々な活動につながっていくことを目指して活動した。(登録者：24人)

No. 82 富沢遺跡保存館ボランティア育成事業

展示解説や行事の際の業務補助等を行うボランティア育成を目的として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。(登録者：69人)

4. 基本方針 4 「楽都」「劇都」の成長促進

たくさんの市民が集う劇場等を文化の継承・創造・発信の場として活用することで、「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

[1] 劇場・音楽堂の活性化

[2] 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

[3] 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

令和6(2024)年度 事業の概要

第9回仙台国際音楽コンクール出場者募集・予備審査を実施するとともに、イベントの実施等を通じて、令和7年度開催に向けて機運醸成に努めました。また、18回目となる仙台クラシックフェスティバルの開催を通じて「楽都仙台」を積極的に国内外に発信しました。

舞台芸術については、第9回仙台短編戯曲賞の大賞作品の選考を行ったほか、地元の人材と連携した企画の実施を通じて「劇都仙台」の振興を図りました。

[1] 劇場・音楽堂の活性化

- ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業[55,002]（市負担金・助成金・入場料・自主財源／No. 9)
＊方針2, 3, 5にも該当
- イ 泉文化創造センターリニューアル記念事業[3,055]（自主財源／No. 4）＊方針2にも該当
- ウ 泉文化創造センター活性化事業[5,868]（自主財源、入場料、協賛金、助成金等／No. 11)
＊方針2にも該当

[2] 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台クラシックフェスティバル2024[87,355]（市負担金・入場料・協賛金・自主財源等／No. 6)
- イ 地下鉄駅コンサート[1,013]（市負担金／No. 29)
- ウ 仙台国際音楽コンクール事業[56,343]（市負担金・助成金・入場料等／No. 38-44)
- エ 仙台ジュニアオーケストラ運営[23,918]（市負担金・受講料等／No. 45）＊方針3にも該当
- オ 市制施行135周年記念コンサート[4,395]（市受託料／No. 48)

[3] 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙臺能[4,195]（市負担金・入場料／No. 22)
- イ 舞台スタッフ・ラボ[1,065]（市補助金・助成金・受講料等／No. 23）＊方針3にも該当
- ウ 10-BOX 鑑賞プログラム[400]（市補助金／No. 24）＊方針2にも該当
- エ せんだい短編戯曲賞[2,875]（市補助金／No. 25)
- オ 能-BOX事業[498]（市補助金・受講料／No. 26）＊方針3にも該当
- カ 地域連携による演劇振興事業[500]（自主財源／No. 27)

主な劇場・音楽堂の活性化事業

No. 9 日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」

フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成し、各部屋の利用促進を図るため、普段施設を利用しない層に足を運んでもらえるような企画を用意した。公募ステージを継続させ、仙台を拠点に活動するアーティスト等による公演企画も実施した。（来場者：3,207人）

主な楽都仙台事業

No. 44 第9回仙台国際音楽コンクール関連事業

- ・第8回コンクール ヴァイオリン部門第2位 デニス・ガサノフ共演「仙台市民交響楽団定期演奏会」（入場者：720人）
- ・堀米ゆず子ヴァイオリン部門審査委員長出演「堀米ゆず子 イザイ&J.S.バッハと語るヴァイオリンの神髄」（入場者：405人）
- ・街かどコンサート「はばたけコンチェルト」（全3回、入場者：907人）

主な劇都仙台事業

No. 9 ライブ文学館vol. 21 井上ひさし「組曲虐殺」

仙台文学館開館25周年を記念し、初代館長・井上ひさしの遺作「組曲虐殺」を、仙台を代表する俳優・渡部ギュウによる演出と、若手俳優のキャスティング、在仙の音楽家・榎原光裕の音楽で上演した。（入場者：411人）

No. 25 せんだい短編戯曲賞 第9回大賞作品選考

全国から公募し大賞作品選考を行い、最終候補作品11作品を掲載した冊子を制作した。

5. 基本方針5 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携や交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、他者への理解を促進し、地域で育まれてきた文化の土壤を発展させることで、文化の力を地域の活性化や課題解決に活かします。

- [1] 地域共生社会を見据えた事業
- [2] 震災・復興に文化を通して向き合う事業
- [3] 地域・社会の課題を見据えた文化事業
- [4] 新たな地域文化創造にむけた事業

令和6(2024)年度 事業の概要

各施設が地域コミュニティと連携し、魅力あるまちづくりに向けた取り組みに積極的に参画することで、地域に根差した施設運営を目指しました。

加えて、令和6年3月策定の「仙台市文化芸術推進基本計画」の基本施策の一つに掲げられている「文化芸術の力を社会に生かす取り組みの推進」に基づき、震災・復興に文化を通して向き合う事業や、様々な社会課題と向き合う事業についても、地域の活動団体や文化関係者との協働を通じて引き続き取り組みました。

[1] 地域共生社会を見据えた事業

- ア 青年文化センター 地域連携事業[902]（自主財源／No. 10）
- イ 富沢遺跡保存館 地域交流促進事業[108]（自主財源／No. 14）
- ウ 富沢遺跡保存館・縄文の森広場 利用者や地域との運営懇談会（No. 83, 98）
- エ 縄文の森広場 学校・地域連携促進事業[125]（自主財源・市指定管理料／No. 17, 99）
- オ せんだいメディアテーク smtホスピタリティ向上事業[299]（自主財源／No. 20）＊方針2にも該当

[2] 震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営[56, 532]（市受託料・受講料／No. 47）＊方針2にも該当
- イ 3がつ11にちをわすれないためにセンター運営[631, 598]（市指定管理料／No. 116）＊方針1, 2にも該当

[3] 地域・社会の課題を見据えた文化事業

- ア 文化芸術を地域に生かす創造支援事業[26, 371]（市補助金／No. 1）＊方針2にも該当
- イ もりのみやこのふれあいコンサート[3, 616]（市補助金／No. 7）
- ウ こどもわかものプロジェクト[1, 054]（市補助金／No. 63）
- エ せんだいメディアテーク 資源循環の杜へ せんだいリブート2024[2, 400]（市負担金／No. 65）

[4] 新たな地域文化創造にむけた事業

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[19, 836]（市補助金／No. 58）
- イ 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局業務[631, 598]（市指定管理料／No. 116）

地域共生社会を見据えた文化事業

No. 10 青年文化センター 地域連携事業

旭丘小学校の児童とその保護者、施設職員が一緒に花の寄せ植えを行い、ホール玄関や外周の美化を図った「フラワー大作戦」や、旭丘小学校土曜開放図書室や地域の折り紙クラブの協力を得て吹き流し等の七夕飾りを製作し、フリースペース活用事業の一環として展示したほか、わんぱく森²がっこ「食育講座」や旭丘小学校「まち探検」などの実施に協力し、旭ヶ丘地域のコミュニティ事業への参画や、地域の方たちと一緒に取り組む施設の賑わいづくり事業等を推進し、地域との連携を深めた。

No. 14 地底の森ミュージアム 地域交流促進事業

閉館時間帯の野外展示施設を活用し、ながまち学びネットと共に催したイベント「森の響き たき火と狩人編」や、仙台三桜高校音楽部によるコンサート「森の響き コンサート編」を実施し、地域の方々が参加しやすい交流の場を創出した。

No.47 せんだい3.11メモリアル交流館運営・主な事業

仙台市若林区荒浜に伝わる郷土芸能・荒浜磯獅子踊（あらはまいそしおどり）を復活させようと動き始めたプロジェクトを紹介するとともに、100年前まで使われていた獅子頭の実物、昭和30年代に保存のため録音した音声、当時を想像した漫画などを展示した企画展「ザンザコザン 荒浜磯獅子踊～100年の空白と10の謎」をはじめとする年4回の企画展のほか、地域の活動団体と連携して行う沿岸部の風土・文化体験プログラム「夏色ドロップス」等を企画、実施した。また、仙台市立小学校の見学受入れや、月命日の延長会館など、東部沿岸地域への案内所・発着点及び地域コミュニティ拠点として親しまれる運営に努めた。（年間来場者：46,426人）

地域・社会の課題を見据えた文化事業

No.1 文化芸術を地域に生かす創造支援事業

「仙台市文化芸術推進基本計画」に基づく取組みとして、観光、まちづくり、福祉、教育等他分野との連携により社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動や、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する事業に対して助成した。

6. 法人の基盤強化と職員の能力開発

- ① 運営基盤の安定化
- ② 組織の強化
- ③ 安全・安心の確保
- ④ 情報発信の強化
- ⑤ 職員の専門性と能力の開発
- ⑥ 市民協働の推進

令和6(2024)年度の取り組み

- ① 新たな寄附制度の仕組みの検討と導入
- ② チャレンジする組織風土づくりのため、具体的な取組みの検討と着手
- ③ 施設・設備の適切な維持管理やより良い利用環境のための仕組みづくり
- ④ 事業ターゲットに合わせた多様な手段を用いた広報展開
- ⑤ 研修メニューの充実と回数増、職員の能力開発への支援
- ⑥ 既存の市民協働事業の活動拡大、新たなネットワークの構築

チケットシステム導入と「市民文化事業団友の会」新制度運用開始

新システムによるチケット販売を導入するとともに、友の会制度に「ネット会員」「レター会員」の2種類の会員区分を設けた新制度の運用を開始し、インターネットやクレジット決済での利用など利用者の利便性を図った。

職員研修の充実

職員の様々な知識や技能等の向上を図るため職員研修を実施してきたが、事業団が策定する第3次中期経営計画による取組みに向けて、財団に求められる役割への理解や職員の意識向上を目的とした研修を実施し、職場研修の充実を図った。